

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

「肉体を斬るものを恐れなくて魂を斬るものを恐れよ！」という格言があります。これは、イエスが言った言葉として、私たちはアダムスキーから伝えられています。

「肉体を斬る」という意味は、例えば、病魔や事故あるいは傷害事件に遭遇するなど、肉体を傷つけ弱らせるような何らかの要因を指しています。これは大変なことで、肉体の損傷はそのまま死となりますから、誰もが必至でそれを避けようとします。何とか生き残れば、医師が助けてくれるかもしれません。

一方、「魂を斬る」とは、輪廻転生を繰り返す本来の自己である魂が、無くなることを意味しています。無くなるとは、宇宙の中で存在しなくなるということではなく、過去の記憶の総てを失いリセットされることを言うようです。

地球人は、現世の印象的な記憶しか思い出せないわけですが、魂は、過去世における記憶の総てを持っていて、それを現世での記憶として思い起こせることが、本当の生の連続であり永遠に生きるこの意味なのです。

その本来の記憶、その人がその人であることの生き様が、無くなるということなのです。

地球においては、初めから知らない記憶についてのことです。あまり意味を持たないと思われるかもしれませんが、何億年生きていたかわからない個人の歴史的遺産を失うということで、これは宇宙における損失として大変なことなのです。

この魂を斬るのは、宇宙の意識以外にありません。つまり、宇宙の意識が目的をもって創造した魂が、自己中心的で、宇宙において役に立たないので魂を斬る（淘汰）ということです。これを、「絶滅」と呼んでいるわけです。肉体は、斬られても魂がある限り、また生まれ変わり自己を継続できますが、魂が斬られると復活はできないという極めて厳しい掟なのです。

このことから、魂を斬る宇宙の意識を恐れて（尊重して）生きるべきであり、軽視している地球人の現状が、いかに非宇宙的であるかを深く考えなくてはならないでしょう。

「言葉に注目」

<人類の改善運動に乗り出す前に私たちから指示を得ています。>

by G・アダムスキー著『金星・土星探訪記』（中央アート出版社）

アダムスキーは、こうした言葉を何度か書いています。ここでは、スペースピープルから伝えられていることとして、彼らに個人的なコンタクトを求める人々がいますが、まずは、冒頭に書いてあるような「人類の改善運動」を行う必要があると言っているのです。

この部分を平和運動などということもあり、いずれにせよ、彼らとのコンタクトを望むなら、人類がより良き社会となることを支援するための活動が求められているということのようです。

また人々に、自分の魂の意識を「宇宙の意識」と融合させることを知る必要があるとも言っています。ここで「知る」と言っていますが、そのこと自体を知らない人が多数であり、実際にそのようにできる人はさらに少ないでしょうからコンタクトが困難なのだと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart61

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の5回目、「宇宙の意志に自分の意志をゆだねること」についてです。

初めに、「人間と自然のあいだの唯一の相違は、自然は自身の意志を持たないということです。・・・自然は“全包容的な英知”の意志のもとにあるからです。」と書いています。そして、「最高の表現としての人間は自由意志的な心を与えられています。人間が苦悩を持つのは実にこの点にあるのです。」とハッキリと言っています。

つまり、自然は、自身の意志である自由意志を持たないで、全包容的な英知の意志に従っているということです。一方人間は、自由意志で生きることによって、全包容的な意志に反して生きているということです。最高の表現として与えられた自由意志を活用するのではなく、逆に、それに操られているということです。これが、人間としての苦悩の始まりですが、このことを「生命の科学」では、最重要事項として繰り返し伝えているのです。

それではなぜ、人間は、全包容的な英知から分離する自由意志を待たされているのか？ これについては、「人間が生活の方法と目的とを“至上なる英知”から学びとるかもしれないという点にあります。」と答えています。人間は、創造主になる可能性が与えられているのです。

この可能性を生かすためには、金星人たちのように自己の心を意識の指導にゆだねることであると書いています。それにしても、地球では、なぜそれが難しいのでしょうか。しかし、以上の事から、創造主は、私たちのような自由意志を持っているということがわかります。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編61＞

“大疑は大悟の基（たいぎはたいごのもとい）”

大きな疑問を持つことによって大きな悟りへの道が開かれるのであり、疑問を抱くことが進歩への基礎になるという教えです。物事に対して、あまり疑問を持たない人が増えているように感じます。学校教育の弊害かもしれませんが、この基本的姿勢は持ち続けたいものです。



Q：異星人は心霊的？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキーは、この太陽系の他の惑星に地球人と同様の人間が住んでいると伝えました。旧約聖書等に登場する事柄から、異星人は、地球人と交わり子供をもうけたということです。つまり、遺伝子が同じであるということになります。地球人は、もともと他の惑星から来たのですから、同種であると考えられますので、心霊的なものとは明らかに異なります。

書物紹介

『言ってはいけない 残酷すぎる現実』 橘 玲（たちばなあきら）著

本書は、本来正しく言うべきところを隠したり、ハッキリ言わない現状があると感じた著者が、真実はこうですよと歯に衣を着せずに書いたものです。

著者に言わせれば、この社会はきれいごとにあふれていて、人間は平等で、努力は報われ、見た目は大した問題ではないと言われるが、それらは絵空事であるとして、様々なデータを基に実証しているものです。知能や学歴、年収、犯罪歴も例外ではなく、美人とブスの格差は、約3,600万円であるという。正しく理解すべき、真理の一端をついた一冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成29年1月7日（土）、3月4日（土）5月6日（土）、7月8日（土）、9月9日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

やりきれないほどではないものの、やはり公私ともに多忙です。皆さんのお役に立てればとの想いで作成していますが実際はどうか？

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第61号>

発行日 平成29年1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

人間は何のために生きているのか？ 端的に言えば、「宇宙の意識の計画（平和で進歩的な宇宙）を共に実現するため」と言えるのではないのでしょうか。それ以外に生きる理由はないのです。

そのためには、何よりも意識の声が聞こえなければなりませんし、その必要性等を理解できなければなりません。

このような視点で地球を見ると、あまりにもかけ離れた人間の生き方に愕然とするとともに、スペースピープルの忍耐強さと大きな愛を感じないわけにはいきません。なぜなら彼らは、一片の可能性を信じ、人間が本道に戻るための「生命の科学」を地球へもたらし、今なお、地球の行く末を案じてくれているからです。

地球人は、生きるための目的がお金であったり、名誉であったり、人の上に立つためであったり、単にやりたいことをやるためであるなど、極めて個人的で目先のことに偏っています。

これは一般人ばかりではなく、公人としての政治家をはじめ、公務員、真理を探究するはずの各分野の学者、知識人と称される方々を含め似たようなものであると思われます。その中には善人で、人のために生きるような人も存在しますが、あまりにも少なすぎると思います。

なぜ、そのように言えるのかというと、例えば、人間の半数以上が、常に世界の平和を願い人々の幸せを考えながら生きていくなら、地球は、平和になっているだろうと考えられるからです。生きる動機が人々のため平和のためであれば、政治、医療、科学、福祉、経済など、様々な分野で改善され、人間にとって真に相応しい社会システムを生み出していることでしょう。

しかし、現実の地球人は、スペースピープルのように、上述の目的を貫徹するような生き方はできないものの少なくとも他人の幸せを考えながら、必要以上の欲をかかずに、仕事や社会生活を送るくらいのレベルにはならなくてはいい感じます。

「生命の科学」は、人間の真の生き方を極論として教えてくれると同時に、今の地球人が目指さなくてはならないレベルについても教えてくれていると思います。

“言葉に注目”

<ローマで行った私の講演を、ヴァチカンから40名の枢機卿が聞きに来ていた・・・>

by アリス・ポマロイ著『肉体を超えて大宇宙と一体化する方法』（中央アート出版社）

冒頭の部分は、1960年にサンフランシスコでアダムスキーが行った講演において語ったことです。それによると、彼らはきちんと正装して最前列と二列目の席をずらっと陣取っていたということです。アダムスキーは、心霊的なことも宗教的なことも排除して行った講演だから来たのだと言っています。

講演後には、手に手に握手を求めては、口々に感謝の言葉を述べていたということです。カソリックの総本山は、スペースピープルの出現とその関連について十分に理解し認めていたということです。当時のヨハネ23世は、アダムスキーを認め会見していますので、これに「対応した動きであったと思われる。しかし今では、そのような動きは無いように思います。

「生命の科学」学習のポイントPart62

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の6回目、「心は習慣の奴隷となりがち」です。

前回、人間が自己の役割を果たそうと思えば、「宇宙の意志に自分の意志をゆだねること」が必要であると学びました。

しかし、ここでは、次のように述べています。「ところが地球人は数千年続いた生活法のために習慣に堕した人間となってしまう、心に関連した習慣的な細胞を作っています。」と。

ここで、“心に関連した習慣的な細胞を作っています。”というのは、心が好むような習慣となった、習慣を言い換えるとパターン化した（または変化のない癖のような）細胞を増やしているというような意味です。つまり、地球人は、数千年間日々の習慣的な生活に満足し、心が好むような習慣化した細胞を増やしてきているということです。

続けて、「そして習慣は自分の（習慣それ自体の）食物に餓えています。」と書いています。習慣は、同様なパターン化したものを求めつづけるということです。

たとえばとして、「飲酒家の心は極端に酒を飲むのは肉体によくないことを知っていますが、習慣が心の主人となっていて・・・（心は）習慣の奴隷として存続しています。」と言っています。ここでは、極端な飲酒はよくないと記憶しているが、習慣（パターン化した思考、行動）は、その記憶、理解を超えて心の主人となって働くと教えています。

そこで、人間は習慣を自分の主人にさせないで自分が生活の主人になる決意と、意識に肉体を整頓（習慣からの脱出等の意）させることの必要性を伝えています。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編62＞

“坊主憎けりや袈裟（けさ）まで憎い”

僧侶に対して憎しみの気持ちを持っていると、その僧が身に着けている袈裟まで憎くなる。その人を憎むあまりその人に関係するものまで、総てが憎らしく思われるという例えです。現実の世界でも、このようなことはあります。これはエゴであり、世の中を歪めているのです。



Q：「宇宙の意識」が分からない？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：「生命の科学」の胆の部分です。しかし、これがなかなか分からないのです。まず、人間は、色々考え思考をします。人体は、生物ですが物質です。つまり、物質が思考するのです。それは、魂があるからです。これが、分化した宇宙の意識（意識）なのです。実は、あなた自身、あなたの本体が宇宙の意識なのです。しかし、肉体の心が、その理解を妨げているのです。

書物紹介

『ドイツ大使も納得した、日本が世界で愛される理由』 フォルカー・シュタンツェル 著

著者は、フランクフルト大学で京都大学に留学後、ケルン大学で哲学博士号を取得しドイツ外務省入省、駐日ドイツ大使を最後に退官、現在、カリフォルニア大学で教鞭をとっています。

彼は、学生時代に日本を旅行して大好きになり、大使として赴任した2011年に東日本大震災に遭遇し、日本在住のドイツ人と政府からの指示との間でつらい体験をしています。日本で合気道を学びながら、ドイツと日本の文化の比較や外国人から日本がどう見えるかなど大変参考になります。また、彼の外見が、アダムスキーに似ているのも面白いところです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成29年3月4日（土）、5月6日（土）、7月8日（土）、9月9日（土）、11月11日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回は、かなり早めに冒頭語を書きました。まあまあ順調に編集できた方だと思います。問題は中身ですが、その判断はお任せいたします。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第62号>

発行日 平成29年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

本通信の「冒頭語」は、アダムスキー支持者にとって、「今、最も必要なことは何か」という視点で書くことが多いようです。そうすると、ある方向に偏った文章となっていきます。

それは一言で伝えにくいのですが、アダムスキー支持者の「心の揺らぎを修正するような内容」であると思います。私は、そのことを強く感じているようです。

そのような実態を自覚している人もいれば、自覚はしないけれどもアダムスキーの伝えた事柄から、少しずつ距離をとり知らぬうちに離れていく人もいます。

アダムスキー没後、半世紀以上が経過します。その間、アダムスキーを肯定するような事象は、一般には広く知らされません。地球人にとって、半世紀は長いのだと思います。しかも、地球の科学界で肯定されない事柄となれば、余計に吸引力はなくなるものと思われます。

しかし、アダムスキーは、この太陽系の他の惑星人と会見したことばかりでなく、地球人の進むべき方向を示し、具体的な様々な教えや支援も行ってきました。その中には、人工衛星の改良やDNAなど分子生物学の研究支援、第3次世界大戦の回避、病気撲滅のための機器の提供、生命の科学の著述、地球が彼らと交流する可能性など、世界が恒久平和になるための種々のアイデアや支援を行っているのです。

このことは、彼の各種書物や講演、あるいは側近者側などから伝えられていることですが、地球の利害と反することが多く、今日に至るも進展がみられず公表もされない分けですが、これらが総て真実であったことは確かです。

私は、真実と言っていますが、皆さん各人は強くそのことを肯定できるでしょうか？ 公的なところから、正式な声明がないと安心できないでしょうか？

彼の正当性について、地球的な視点で精査することは、かなり高度な知識や手法あるいは金銭を必要としますが、「生命の科学」の正しさは、自己の生き方において証明できるものでありますので、それぞれが真剣に探究・実践し、各自が生き証人となることを期待したいと思います。

「言葉に注目」

<この世界で、他の惑星の人々の訪問を受けたことのない政府は一つとして存在していません。>

by アリス・ポマロイ著『肉体を超えて大宇宙と一体化する方法』（中央アート出版社）

冒頭の部分は、前回に続き1960年にサンフランシスコでアダムスキーが行った講演において語ったことです。この言葉の後に、「私はそれを明確に断言できます。そしてこれまでに異星人たちが政府内部で活動していたことのない主要国家もまた一つとして存在していません。」と語っています。その段階で、宇宙の真実は各国に知られていると解釈できると思います。

現状からは信じがたいことですが、アダムスキーは、かなり自信を持って語っていますので、そのような事実はあるものと思われます。推測するに、当時は、アダムスキー派が優勢であったものが、アダムスキー亡き後、反対勢力の影響が加速して、異星人を追い返し多くの事実は削除されているのではないかと考えています。

「生命の科学」学習のポイントPart63

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の7回目、「心は現象に頼っている」です。

初めに「ひとたび心が、その生活の中に多くの不愉快事をひき起こしたみずからの弱さに気づくならば、最初は苦痛と感ずても、ただちに意識による指導に自分をゆだねなければなりません。」と書いています。文字通り行えば良いのですが、行えない場合の理由としては、自分の正体と権威を失ったという恐怖を持つからだと言っています。正に、これがエゴの特徴です。

身勝手であるエゴを反省するどころか、軸足がエゴにあることから、そのエゴにより自らの地位を失いたくないという恐怖が起こり、それが邪魔をするということです。そして知識をもたない心は、言い訳をすると説明します。このことを子供は悪ことをしていないとかばい、子どもの弱点を恐れて矯正しない親にたとえています。うまい例えであると思います。

次に、イエスの言った「自分の生命を捨てる者は永遠の生命を得るだろう」。この意味について、「エゴの意志を意識の意志にゆだねる者は永遠の生命にあずかるということです。」と書いています。正にその通りですが、実践が困難であっても、それを深く納得する必要があります。

そして、人間の探している幸福は、上述のことができなければ、言い換えると「自己の意志と意識の意志とを融合」させなければ見つからないと書いています。

このことを、「水中で他の水と融合する水滴が海洋の広さを知り得るのと同様」と言っています。これは、様々な誘惑や困難を潜り抜け、陸上を旅し続ける一つの「どろ球」が、苦難の末、大海に融合する例え話を思い出します。こうして人間（心）は、いずれ意識と融合するのです。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編63＞

“憎まれっ子世に憚（はばか）る”

世間から嫌われている者に限って、巧みに世の中を渡って出世する。人から憎まれている者が、かえって世間で幅を利かせるものであるということです。地球の現状は、正に、このようになっているのではないのでしょうか。



Q：地球に“平和”は望めない？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：単純に理屈どおり成立できないでしょう。人を傷つけることはよくないとされながら、未だに武器が無くならず、むしろ核兵器を含め強大化しています。他国の裏情報を様々な手法で集め、有事の際に活用するなど常に他国や他人を欺くことが必須な世界なのです。真剣に世界平和を考える人は実際には極めて少ないでしょう。それが、地球社会の実態なのだと思います。

書物紹介

『地域の力 食・農・まちづくり』 大江 正章 著 岩波新書

本書は、地域格差と疲弊が広がる中で、市民と自治体行政がともに知恵を出し合い、魅力を発信している実例を取材に基づき出版したものです。好循環はいかにして作り出されたのか。内容は、地域資源の活用、有機農業、林業、商店街の活性化、学校給食・食育、都市農業、公共交通など、多くの成功事例を紹介しています。2000年前半の取材による先進事例ですが、現在では多くの自治体で実施されているものです。一つの成功事例で、自治体が活気づくほど単純ではありませんが、様々な点で参考となる書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成 29 年 5 月 6 日（土）、7 月 8 日（土）、9 月 9 日（土）、11 月 11 日（土）、平成 30 年 1 月 6 日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後 1 時 30 分。会場代一人 500 円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

なかなか、時間が割けない状況ですが、どうか継続発行しています。本編集が、私の一番の勉強だと感じています。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第63号>

発行日 平成29年5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキー没後半世紀。グレイ系異星人の目撃やコンタクトなどが伝えられていますが、アダムスキーが伝えたような美しく、友好的な異星人との新たな情報が伝えられることはありません。実際には、関係している人もいるでしょうが、広く伝えられないのが実態です。

友好的な異星人とのコンタクティがないと考えられている現在、アダムスキーの体験を継承するようなコンタクティが待望されているようです。

これは、ある種当然なのかもしれません。当時、アダムスキーの体験は、想像すらできない事柄ですが、不思議と否定し得ないものとして、多くの人々に受け入れられていたようです。しかし、彼は、活動が完了したとは思えない中、急きょ故郷に帰ってしまいました。

その後、宇宙開発が進み伝えられる月や近隣惑星の実態は、彼の発言を否定するものでした。このような状況が半世紀も続けば、アダムスキー肯定論者も不安となり、否定論者や無関心者へとようになっていくようです。

これは一般論としては、やむを得ないこととなるでしょうが、「生命の科学」の学徒であるなら、その真意をまったく学んでいないこととなります。

まず言えるのは、「生命の科学」の論理や教示等を信じられる人は、当然にアダムスキーの伝えた、宇宙の真実や指導者からのメッセージなどを信じているはずだということです。

彼らの伝えた事柄を肯定できるとなれば、それを証明する事実が出て来ないとしても、それが宇宙的真実であると分かるわけですから、いつまでも理解し続け、周知活動を行わないまでも否定論者になれるはずがありません。そんなことになれば、嘘をついていることとなります。

また、原因と結果の法則によれば、彼らは、宇宙の理に従い地球人を目覚めさせる行動（原因）をとりながら、その結果をもみ消す力に任せるはずがないと考える必要があります。つまり、彼らは、アダムスキーを信じる人々のため、そして地球に関わっていた歴史を知らせるために、否定できない形で出現すると考えられるのです。その真偽が、そう遠からず分かると感じています。

“言葉に注目”

< 進歩というものは常に現在においてあるものだからだ。 >

by G・アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

冒頭の言葉は、本書、第9章の「地球人のレッスン」において書かれているものです。本文の前段では、「賢明な人は一瞬一瞬を生きることを学ぶにつれてこそ進歩が自分のものになることを知っている。」と書いています。また、進歩について、「・・・仕遂げねばならぬ永遠の道とともに絶え間なく努力を要する。」と言っています。

そして、過去は過ぎ去ってしまっても変えようとしても変えられないこと、未来は手をのばしてもつかむことができないことと、それが到着するときこそ現在であるとしています。これらのことから、進歩のためには絶え間ない努力が必要であること、今を生きることが進歩につながる、それは地球人にとって、成し遂げるべき重要なレッスンであることがわかります。

「生命の科学」学習のポイントPart64

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の8回目、「放蕩息子」の物語の真の意味です。

本件の物語を知っている人も多いと思います。アダムスキーは、初めに「放蕩息子の心はあらゆる人間の心を描いたものです。」と書いています。息子が放蕩から自宅に帰ろうとする気持ちは、家の誰かに自分の行為を指摘される、それを理解した上で自尊心のすべてを投げ捨てる、そして謙虚になる、家の誰も自分のような体験を持っていない、これらのことを克服して意識の意志、万物の父のもとへ帰ろうと決心したからだとしています。

そして、「家に到着したとき息子のエゴは驚きました。」と綴っています。それは、息子のために父親は、何事もなかったかのように宴会を開き両腕を開いて歓迎したからです。

帰宅することをためらい、あらゆる事態を想定していたところ、父親の歓迎ぶりに驚いたということです。ここで驚いているのは、「息子のエゴ」です。人体の心の部分であり、人間的習慣的なものですから、経験的な判断と比べて驚いたということです。

続いて、「エゴがみずからを征服しようとするほど大きな勝利はなく、その努力に対する報いは無限なのです。」と書いています。

また、「・・・あらゆる個人には本来の魂がある・・・それが迷える者にとって・・・唯一の希望・・・。」と記しています。「しかしこれはまもなく“宇宙の意識”によって克服されました。」として、反省の気持ちを超え本来の場所（意識）で生きていく姿を描いています。父として描かれている宇宙の意識は、人間が帰宅してくれることを常に願っているということです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編64>

“薄氷を履む”

薄く張った氷の上を歩くように、はなはだしく危険な状況に臨む例えで、様子を見ながら徐々に進んで行くことを言っているものです。これは躊躇して進まないのではなく、着実に進んで行くのですが慎重に進めている様子を示しています。社会において、時には必要な手法です。



Q：スペースビープルの生き方を示す言葉は？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキーと交流したスペースビープルの生き方の一端を象徴する言葉があります。それは、彼がレストランにおいてファーコン（火星人の仮名）とラミュー（土星人の仮名）と会見した際、ファーコンが言った言葉にあります。「ずっと昔、私たちは信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力などを学びました。」彼らは、これを活かした生き方をしているのです。

書物紹介

『マネーロンダリング入門』 橘 玲 著 幻冬舎新書

マネーロンダリングとは、マネー洗浄と言われるもので、国や地域に存在する複数の金融機関を利用して、違法な手段で得た収益を隠匿するものです。麻薬、武器密売、人身売買などに関わる資金が主の対象なのだと思います。本書では、タックスヘイブンやオフショアと呼ばれる税を課さない国や税制などの優遇措置を与えられた国際金融市場など、様々な手法で自己の資産を守ろうとする事例が書かれています。また、バチカンと資産との関係についても、公然のものとして書かれています。地球が、いかに毒されているかが分かる書物の一つでしょう。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成 29 年 7 月 8 日（土）、9 月 9 日（土）、11 月 11 日（土）、平成 30 年 1 月 6 日（土）、3 月 10 日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後 1 時 30 分。会場代一人 500 円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

何事も計画的に判断し行動してゆけば、本通信のような小さなことでも継続できると考えています。地球上では、計画性は重要なのです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第64号>

発行日 平成29年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡 邊 克 明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

「宇宙」＝「宇宙の意識（＝意識）」と考えている人がいるようです。私が知り得るところでは、異なるものだと考えています。但し、宇宙＝意識になる可能性があるのだと思います。

宇宙という物質界は、意識の想いを現実の世界に実現する役割をもって創造された最高の形態であると考えられます。宇宙は、意識の想いを理解できる能力を有していて、常にその想いに反応しています。

ある意味で、宇宙は意識と一体となる途上にあるようです。なぜ一体とならないのか？ それは、宇宙には、エゴを持つ人間が存在しているからです。

これは、未完成の人間が居ることではありません。

完成した人間など宇宙のどこにも存在しません。意識がそうであるように、人間も進化し続けるからです。その意味で未完であっても、意識に向かって生き続けようと認識し、仮に、100を感じてその通り対応しているなら、それは、意識と完全に一体であると言えるでしょう。

宇宙は、そのように生きる人々で満ちています。

そのような宇宙の中で、地球は、他の惑星人と比較できないほど、生命の初期のレベルであえています。その理由は、宇宙に従うべき基準を知らず、エゴを主体に教育、経済、政治をはじめ生活のすべてが制度化され、常識と言われるものさえ、その多くが非宇宙的であるからです。

このような中では、自分が真実からずれていることさえ気づけないのです。イエスが言うように、人間は、自分が死んでいることさえ気づかないのです。

このような大いなる無知の中で、「生命の科学」で伝えられた諸々の真実のみが、人間を無知の網から解放してくれます。残念ながら、そのことを知らない人が、アダムスキー支持者を含めあまりにも多いのです。このままでは、宝の持ち腐れとなってしまうでしょう。

これには、人類のパラダイムシフトが必要です。しかし、一部理解者の力だけでは不可能に違いありません。ここに、SPとの連携によるプログラムが始動する理由があるのです。

“言葉に注目”

< 一般の地球人の心は全くこの “のべつまくなしのしゃべり手” のようなものである >

by G・アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

この言葉は、本書の第12章にある「テレパシーを開発するには」と題する中で書かれているものです。アダムスキーは、テレパシーを正しく身に着ける前に、まず心を充分理解する必要があること、そして、「個性を完全に排除することができなければならない」と書いています。

そこで、“のべつまくなしのしゃべり手”である地球人は、電話を“話し中”にしっぱなしで、受信ができないのだというわけです。仮に、受信できる準備ができて、惑星の大気等には多くの想念が満ちているので、理解力がなければ、混同して受信するのだという。

地球人には、なかなか困難なところですが、これらを乗り越えれば、意識からくる真のテレパシーを感受できるようになると言っているようです。

「生命の科学」学習のポイントPart65

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の9回目、「真の生まれかわりとは何か」です。

冒頭で、「これはイエスが言ったように、心を新生させて個人が新たに生まれかわることを意味します。」と書いています。そして、この事を言い換えて、「自我の自尊心が“宇宙の意志と栄光”の中に生まれかわるときにこそ、人間は実際に死ぬことになるからです。」と説きます。

上述の“死ぬ”というのは、肉体ではなくその心であるエゴを指しています。しかし、エゴである心を滅失することではなく（ここでは、心＝エゴではないことに留意。）、自己中心（自尊心）の心が、宇宙的な価値観を理解できるように生まれかわることを言っているわけです。

続けて、「あなたがいかに多くの書物を読もうとも、いかに多くの宗教を遍歴しようとも、いかに多くの講座や教師につこうとも、放蕩息子がやったようにやらなければ、これらのどれも無意味であって・・・。」と書き、「自我のプライド（自尊心）を死滅させて、謙虚さと“意識の意志”のなかに生まれかわりなさい！」と強調しています。

ここで、“自我のプライドを死滅”と書いていますが、自我（心）を死滅させることではないことに留意が必要です。そして、あなたがいま生活で楽しんでいる物事を捨てる必要がないこと、極端にやっていることを適度にやること、個体の細胞の“神”を見るように自分の心を仕向けるのだと言っています。これは、大変に重要な部分で、心をリラックスさせて意識を心に留め、自己の好き嫌いに左右されずに、自己の心を客観視するような気持ちで生活できれば、適度な生き方につながり、“あなたの肉体は完全さの証拠を示す”ことになるでしょう。

宇宙に“生きる”

<名言格言編65>

“馬鹿ほど怖いものはない”

愚か者は、物事の分別をわきまえないので、どんな恐ろしいことをするか分からないという意味です。馬鹿とは無知な者ともいえ、自分で自分の行動を理解できず制御もできないので何を仕出かすか分からない怖さがあります。今の地球人は、正にこの格言に該当すると思います。



Q：地球の地軸は傾くのか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：この事について、時々発言する人がいます。『第2惑星からの地球訪問者』には、「激烈な傾きは地球上に大変動をもたらすでしょうね？」と聞くと、「必ず起こります」とオーソンが語っています。そして、他人を自分自身とみなす生き方をすれば、大変動を防げるとも言っています。今の地球を見ると、自己中心な生き方なので地軸の傾きは必ず起こると思われます。

書物紹介

『進化論の最前線』 池田 清彦 著 インターナショナル新書

本書は、テレビでおなじみの池田氏の著書です。本書では、『種の起源』を現し、人類に“進化”という概念を示したチャールズ・ダーウィンと、その進化論に対し真っ先に異を唱えたアンリ・ファールブル。現代進化論の主流派であるネオダーウィニストたちは、19世紀の人物であるファールブルの批判を、いまだ論破できていない。果たして我々は本当に進化論について理解しているのか。進化論と生物学の最先端を解説するとしています。また、進化について学ぶ大きな動機は、「私たちはどこから来たのか」を解明することだと明言する書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成29年9月9日（土）、11月11日（土）、平成30年1月6日（土）、3月10日（土）、5月12日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回は、夏季休暇など活用して、早めに編集を終了できました。「生命の科学」を理解するうえで、読者の一助となれば幸いです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第65号>

発行日 平成29年9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）